

美術の窓(76)

小学校高学年・中学生のための ワークシート「花の美術」

大和文華館館長 水田 徹

昨年夏のある展覧会で、一人のご婦人がお子さんを連れて熱心に作品をご覧になっていたとのこと。途中でお子さんが退屈したのでしょうか、会場内をあちこち歩き回りはじめ、お母様はそれを止めようとしきりに気を遣われ、鑑賞どころではなくなったご様子。見かねた保安員がお母様の同意を得てお子さんを会場入り口のロビーでしばらくお預かり致しました。ややあって、お母様がみえ、「お陰様でゆっくり鑑賞できました」と礼を述べられ、一方、お子さんは保安のおじさんに遊んでもらって嬉しかったのでしょうか、親子手をとりあって楽しそうに館を後にされました。

一部始終を拝見し、私もほっといたしました。会場の混み具合によっては常にこうした対応が取れるとは限りません。加えて、ご一緒いただいたお子さん方にも何がしかの鑑賞体験をしていただく工夫も必要なのではないか、と思いました。

その後しばらくして今度は近くの中学校の生徒さんが5クラスほど団体鑑賞にみえました。講堂で美術品を見る楽しさと意味を一言ご説明し、会場には展示を企画した学芸員が質問受け付けに待機していることを伝え、後は各自自由に観覧してもらいました。たまた

ま奈良新聞がこの様子を取材し、小さな記事にもしてくださいましたが、正直申して興味をもつ生徒さんは限られ、もう少し生徒さんを惹きつける手だてがなかったものかと痛感しました。

そんな二つの出来事の後、反省に立って、今年度第2回目の展覧「花の美術」(5月18日～7月1日)に合わせて、小学校高学年・中学生向けの鑑賞ガイドを制作することに致しました。まだ試作の段階ですが、ここにその概略をご紹介します。

ワークシートの基本コンセプトは、通常の解説板を子ども向けに易しく書き直すというだけでなく、子どもが美術館に親しみ、美術を自分の目で見えるように促すこと、

子どもが自らの鑑賞活動をより体験的なものにするために、ワークシート形式を採用すること、

鑑賞の体験をその後の創造(制作)活動にも生かせるものにする

こと、

個人単位、学校単位のいずれにも対応できるもの

にすること、
の4点とし、その他にも学校(学級)単位の鑑賞用に別途、簡便なティーチャーズガイドも用意すること、鑑賞後の印象などを希望に応じて館にフィードバックできるように工夫も加えること、などを基本にしています。

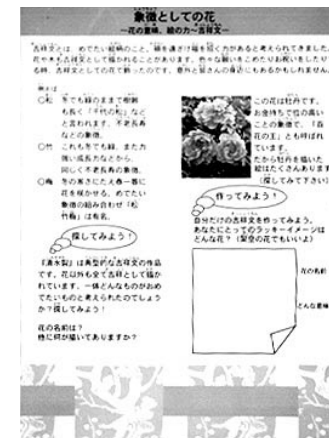
ワークシートの中身そのものは展覧会の主旨に沿って、どのような花が描かれているか、表現方法の特徴と時代様式、描かれるもの(器、織物、屏風など)の形の生かし方、他のモチーフとの組み合わせ方、象徴的な意味づけ、という五つの観点毎に頁を組み、全体を三つ折りの表裏6頁のハンディーな形式に仕立てます。

制作は大和文華館学芸部の監修のもとに、東京学芸大学教育学部・造形芸術学研究室の大学院生があたります。同研究室は教育学部に

所属するという特徴を生かして、小・中学生を対象とした美術館教育にも力を入れ、すでにいくつかの美術館とタイアップして、鑑賞教育の実践を積み重ねています。

日本・東洋美術の専門美術館としての伝統に則りつつ、美術愛好家の皆様にはお子様づれでも安心してご来館いただけるよう、そして子どもたちにも、本物の美術品を見る感動を少しでも伝えることができるよう願って試みるものです。ご理解とご活用をお願い申し上げます。

ワークシート「花の美術」(第2次原案)



季刊 美のたより No.134

平成13年4月5日

発行 大和文華館